

第2学年国語科学習指導案

日 時： 令和4年11月15日（火）
対象学級： 九戸村立九戸中学校 2年B組 教室
指導者： 二階堂 律子

- 1 単元名 「走れメロス」の表現や構成の効果を発見し、「走れメロス論」を書こう
教材名 「走れメロス」（東京書籍 新しい国語3）

2 内容のまとめ

第2学年

〔知識及び技能〕（1）言葉の特徴や使い方に関する事項
〔思考力、判断力、表現力等〕 「C 読むこと」

3 生徒観

読書などの時間を通して、文学作品に親しみ味わう生徒は多い。しかし、これまで場面構成や登場人物の設定の仕方や、作者の意図や効果について読みを深める学習の機会は多くなかった。そこで、本単元を通して、「どのような物語にしたいか」という作者の意図が様々な叙述に影響していることから、「走れメロス」と原典となった詩を読み比べることで、表現や構成の効果について考えさせたい。

この学習を進めることで主題や人物像を捉えるために、重要な叙述に留意して読んでいこうとする姿勢にもつながっていくと考えた。その際、言葉に着目して読むことで、生徒が「言葉による見方・考え方」を働かせて学習することにつなげたい。また、登場人物の設定の仕方について、作品を創作する上で作者がどのような意図をもっていたのかを考えさせ、より深く文学を読み味わう学習を展開したい。今後、別の作品を読むときにも、作者の意図や表現の効果などを意識して読むことができるようになるだろう。

4 単元の目標

- （1） 抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに、多義的な意味をあらわす語句などについて理解することができる。〔知識及び技能〕（1）エ
- （2） ①観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や展開、表現の効果について考えることができる
〔思考力、判断力、表現力等〕 C（1）エ
- ②文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 C（1）ア
- （3） 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に
して、思いや考えを伝えあおうとする。〔学びに向かう力・人間性等〕

5 教材の特徴

『走れメロス』は、小栗孝則訳編『シラー詩抄』所収の『人質 譚詩』を作者が直接素材としたものと考えられている。『人質』のメロスは一貫した正義の士である。一方、『走れメロス』のメロスは、単純で独善的なところがある。途中で悪心をもち、セリヌンティウスとの約束を諦めようとさえする。そんな人間的な弱さをもつメロスが、友との信頼に応えるために、王城までたどり着き、ついに約束を果たすという展開になっている。こうした面から、『走れメロス』は『人質』を「人間の弱さを肯定し、それを克服していくことの尊さ」を主題とした作品に昇華させたものだということができる。

作者の「書き加え」は、心理描写などの有無がはっきりしているため、生徒にとっては見つけやすい。一方、「書き換え」とは、『人質』の内容を作者が意図的に変えた部分を指し、今回は特に人物設定と場面設定の変換に注目していきたい。二つの文章を比較することを通して、書き手の意図や人物や場面の設定、表現の効果を考える学習を進めていきたい。

6 本単元で働かせる見方・考え方

本単元では、「人質」を、「走れメロス」と合わせて提示する。そのうえで、『走れメロス』の表現や構成の効果を発見し、『走れメロス論』を書こう」という言語活動（中心課題）を設定する。読み比べる上で「叙述の仕方」「人物の設定」「構成や展開」等に注目することで文章の構成や展開の効果について考えたことをもとに、自分の考えた『走れメロス論』を書くように促す。

7 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
○ 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、多義的な意味をあらわす語句などについて理解している。 (1) エ	① 「読むこと」において観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や展開、表現の効果について考えることができている。 C (1) エ ② 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えている。 C (1) ア	○ 粘り強く、文章の構成や展開、表現の効果について考え、学習課題に沿って「走れメロス論」をまとめている。

8 教科研究との関り

(1) 学習課題や中心発問の精選

本単元では、中心課題『走れメロス』の表現や構成の効果を発見し、「走れメロス論」を書こう」を解決するための小課題を生徒自身で設定することで、単元の学習に主体的に取り組めるようにする。また、学習の過程で、解釈した内容を『人質』の場合と比較しその効果を考える活動では、着目する叙述を確かめながら考えを形成できるようにする。

(2) 単元のまとまりを見通した単元構成の工夫

① 単元の前半

取り組むべき内容や着眼点について全体で探究したり交流したりする活動を展開して、次時からの個人やグループでの探究の仕方について生徒がイメージをもてるようにする。

② 単元の後半

生徒が多角的な視点から考えを深めていけるよう、グループ交流や全体交流の場を持ち、読みを深められるようにする。個人で考えた「走れメロス」の表現の効果が、グループ交流によってより深まりをもてるようにする。

9 単元の流れ

次	時	内容	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	2	① 全文を読んであらすじを捉える ② 初読の感想を書く ③ 中心課題を提示し、中心課題解決に迫る学習課題を設定し学習の見通しをもつ。 ④ 「走れメロス」と「人質」を読み比べて相違点や疑問点を発見する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【予想される相違点】 ・冒頭の部分が詳しく書かれている。 ・メロスが途中であきらめかけている。 </div>	・これまでに身に付けてきた読みの力を振り返り、登場人物の設定の仕方や文章の構成や展開に目を向けさせる。 ・「走れメロス」はどんな物語か考えさせる。	

		<p>・比較して気付いたことや分かったことを，学習計画に生かす。</p> <p>・教師が作成した「少年の日の思い出論」を提示し，学習のゴールのイメージを持たせる。</p>	
2	3	<p>【想定される課題】</p> <p>課題1 シラクスの城中での場面でメロスと王のやり取りが詳しく書かれているのはなぜか。</p> <p>課題2 妹の結婚式の場면을詳しく書き加えているのはなぜか。</p> <p>課題3 濁流と山賊の場面の描写と倒れる直前のメロスの心情が詳しく描かれているのはなぜか。</p> <p>課題4 フィロストラトスに関する書き換えにはどんな効果があるのか。</p> <p>課題5 『何だか、もっと恐ろしく大きいもの のため』と語ったメロスの心情はどのようなものだったのだろう。</p> <p>課題6 刑場の場面のリライトにはどんな効果があるのか。 ・メロスとセリヌンティウスの告白と殴り合い</p> <p>⑤ 課題1について全体で探求する。 冒頭の城中での場面の描写から作者が設定した人物像を捉える（全体） 「冒頭の人物設定」「人物の見方や考え方を表す描写」に着目したり、「相互関係」を考えたりしながら，登場人物の設定の仕方の効果について全体で考え，学習の仕方を⑥に生かすようにする。</p> <p>⑥ 気づいた「違い」について，自分の読み・解釈をつくり，他者との交流を経て，解釈をまとめる。 （個人→グループ）</p> <p>⑤の学習の流れを参考し，シンキングツールを活用しながら，表現や構成の効果に迫る。</p> <p>⑦ 探求した課題を発表し，感想や発見を交流する。（発表→質疑応答） （全体）→本時</p>	<p>○抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに，多義的な意味をあらわす語句などについて理解しているか確認する。 〔知識・技能〕 ワークシート</p> <p>・言語活動のモデルを提示し，学習の見通しをもてるようにする。</p> <p>・「場面を改変させたことにはどのような意味があるか」「なぜ、『人質』の内容のままではいけなかったのか」という視点から，個々の叙述の効果を吟味させる。</p> <p>・文章全体と部分との関係に注意しながら，登場人物の設定の仕方を捉えているか確認する。 〔思判表②〕ロイロノートシンキングツール</p>

3	1	<p>⑧「走れメロス」の表現の意図とその効果について「走れメロス論」としてまとめる。</p> <p>これまで学習した「登場人物の設定の仕方」「文章の構成や展開」に着目し、特に効果的だと捉えたものについて、文章全体と部分の関係に注意しながら自分の考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初読の感想と比べる ・これまでの学習において学んだ「文章の構成や展開」「登場人物の設定の仕方」等の効果について振り返りながら、「走れメロス論」として自分の考えをまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や展開の効果について考えることができるか確認する。 [思判表①] ・文章の構成や展開、表現の効果について考え、学習課題に沿って「走れメロス論」を書いている確認する。[態度]
---	---	--	---	--

7 本時の指導（4時間目／全6時間）

（1）本時の目標

読み比べて発見した「走れメロス」の表現の効果についての考えを交流することで、更に自分の考えを深めることができる。

（2）本時で働かせる見方，考え方

読み比べる上で「叙述の仕方」「構成や展開」等に注目することで文章の構成や展開の効果について考えたことをもとに交流し、次時に各々でまとめる「走れメロス論」につなげるように促す。

	<p>評価基準とまとめの記述例</p> <p>A 作品の全体像やメッセージを捉えて、表現や構成の効果について自分の考えをまとめている。</p> <p>交流を通して、「人質」では強く勇敢なメロスだが、「走れメロス」では妹の結婚式の場面や疲労困憊して倒れる場面を描くことで、メロスが弱くて諦めそうにもなる人物となっている。また、フィロストラトスの書き換えにより、メロスは他人から自分がしたことによって恨まれてもいる。このように「走れメロス」では「人質」にはないメロスの人間らしさが表現され、その弱さを持ちながらも「信実」のために目的を達成する姿に、読者も刑場の場面での王も感動し、さらに王は改心したのだと考えを深めることができた。</p> <p>B 自分の課題と他の課題に対する考えを比べて気づいたことをまとめている。</p> <p>探求した妹の結婚式の場面で、「勇者であっても、迷いがあれば命を懸けるのはそんなに簡単なことではない」ということを作者は表現しなかったと考えた。課題3の『『勇者』が困難を乗り越える人ということだけならば、濁流の前であきらめるような言葉を表現する必要がない、困難を前にしてメロスがとても人間らしい弱さをもっているということを表したいのかもしれない」という発表を聞いて、作者は、迷ったりあきらめかけたりと弱さを持ったとても人間らしい人物として、メロスを描きたかったのではないかと考えた。</p> <p>Cの生徒への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめたり、グループで話し合ったりする際に、根拠となる叙述を示し、「登場人物の設定」「構成や展開」という視点を与える。 ・今までの学びや、文章全体との関連を意識させる。 ・書き出しや形式を与えて、考えたことをまとめられるようにする。 	
<p>終末</p> <p>5分</p>	<p>3 学習を振り返る</p> <p>振り返り（例）</p> <p>自分の課題解決だけでは作者が意図して書いたメロスの人間らしさの一部分しか見えなかったが、課題を交流することによって多方面からメロスの人物像に迫ることができ、この人間らしさが王の改心の足掛かりとなるような構成を作者は意図したのではないかと考えを深めることができた。</p> <p>4 次時の学習への見通しをもつ。</p> <div data-bbox="274 1711 1002 1816" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「走れメロス論」をまとめて交流し、学習のまとめを行う。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・交流をとおして自分の考えがどうなったか（どう深まったか）を書けるようにテンプレートを用いる。 ・振り返りの意図的指名を通して、本時の成果を位置づけるとともに、次時の見通しをもたせる。